

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス みんなの学び館		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 15日		～ 2025年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2025年 1月 15日		～ 2025年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	定期的に面談や子育てに関する助言等の支援を行っている。	月に一度のグループ相談支援に加え、必要や求めに応じて相談援助を実施している。また、個別サポート加算(Ⅲ)を取得している児童の保護者さんとは月に一度、個別の相談援助も実施している。	保護者さん同士で対面する機会を積極的に設定し、事業所や指導員から保護者さんという一方向的なものだけでなく、保護者さん同士といった双方向的なグループの構築に努める。また同じ立場の者同士で共感し合い助け合う「ピアサポート」の実現に向けた取り組みも推進したい。
2	<ul style="list-style-type: none"> 子どもは安心感をもって通所している。 子どもは通所を楽しみにしている。 事業所の支援に満足している。 	子ども一人一人のニーズに適した個別の活動を設定し、また一方で共通に広く求められるニーズに対してSSTなどの集団での活動を設定するなど、課題ごと具体的に支援方法を柔軟に変えてサポートを行っている。	言語化が苦手な児童のニーズ推定・適切なアセスメントの強化に加え、児童の願いと保護者の願いが食い違うなどの場面で積極的に仲裁し、落としどころを探るといった家族全体への支援も強化していく考えである。
3	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援を提供できている。	既定のアセスメントに加え、支援や活動場面の中で児童らのアセスメントを随時行い、個別具体的な事象について可能な限り指導員間で共有を図り、支援を提供している。指導員によって差が発生しないよう共通理解や研修等欠かさず、また一方で指導員の強みを活かした支援や活動を日々研究し、提供している。	フリースクールや学校等との連携をさらに強化し、アセスメント等の結果を放デイ外での支援場面でも有効活用してもらうことで、児童やご家族全体のウェルビーイングの向上を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	職員の認識と保護者の認識が乖離しており、当事業所での交流等の取り組みの実態・実績を保護者様に適切にお伝えできていない状況がある。また、交流活動に抵抗がある児童の保護者様にはそれらを伝える機会がさらになく、そういった機会逸失が保護者様の声に反映されているとみている。	交流活動の意義を職員ならびに保護者様に広く共有し、そういった取り組みを実施するには活用できる社会資源をひろく用い、事業所レベルでなく地域全体での意義の向上、成果の実現を目指していく。またその結果について保護者様や地域向けに広く情報を伝達・共有していく。
2	事業所の設備等は、障がいの特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	現在利用している児童、または過去利用していた児童らに重症身障等の障がい児がおらず、現時点で利用予定もないため。	今後、バリアフリー化などの対応が必要な児童を受け入れる可能性を念頭に、必要な処置を適切に推進していきたい。
3	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	第三者機関の検討や選定が間に合っていないため。	本年度は他事業所連携が前年度に増して強化されており、そのつながりを活用して他事業所との相互評価の仕組みづくりを現在模索している。